

熊本大学広報誌

熊大通信

vol. 74
2019 AUTUMN

特集Ⅰ

遺伝子の謎に迫る

生命の源流をたどる。遺伝子研究最前線。

特集Ⅱ

頑張れ先輩！インタビュー

目指せ、東京五輪！

熊大ゆかりの先輩を応援しよう！



Takumi, m

熊大通信 vol. 74 2019 AUTUMN

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 遺伝子の謎に迫る
生命の源流をたどる。遺伝子研究最前線。
- 11 研究室探訪 「子どもの幸せについていろんな方向から
一生懸命考えてみたい人」、待っています
教育学部 学校教育（教育学）
藤井 美保 准教授
- 13 特集Ⅱ 頑張れ先輩！インタビュー
目指せ、東京五輪！
熊大ゆかりの先輩を応援しよう！
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.74

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市中心区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】熊大通信編集委員会
鷺見 直哉/委員長 大学院先端科学研究部（理学系）
安村 明/大学院人文社会科学部（文学系）
松永 拓己/大学院教育学研究科
河野憲一郎/大学院人文社会科学部（法学系）
一柳 錦平/大学院先端科学研究部（理学系）
尼崎 太樹/大学院先端科学研究部（工学系）
永田まなみ/大学院生命科学研究部（保健学系）
首藤 剛/大学院生命科学研究部（薬学系）
立山 三雄/総務部総務課広報戦略室長

【制作】株式会社 談

表紙 / 【原画】松永 拓己 / 大学院教育学研究科 准教授
熊本大学の武夫原（グラウンド）を走る。
*武夫原（ぶぶげん）
熊本大学黒髪北キャンパスにある、グラウンドの愛称

熊大生、拓く。
舞え！熊本を盛り上げて！— 第八回紫熊祭実行委員会

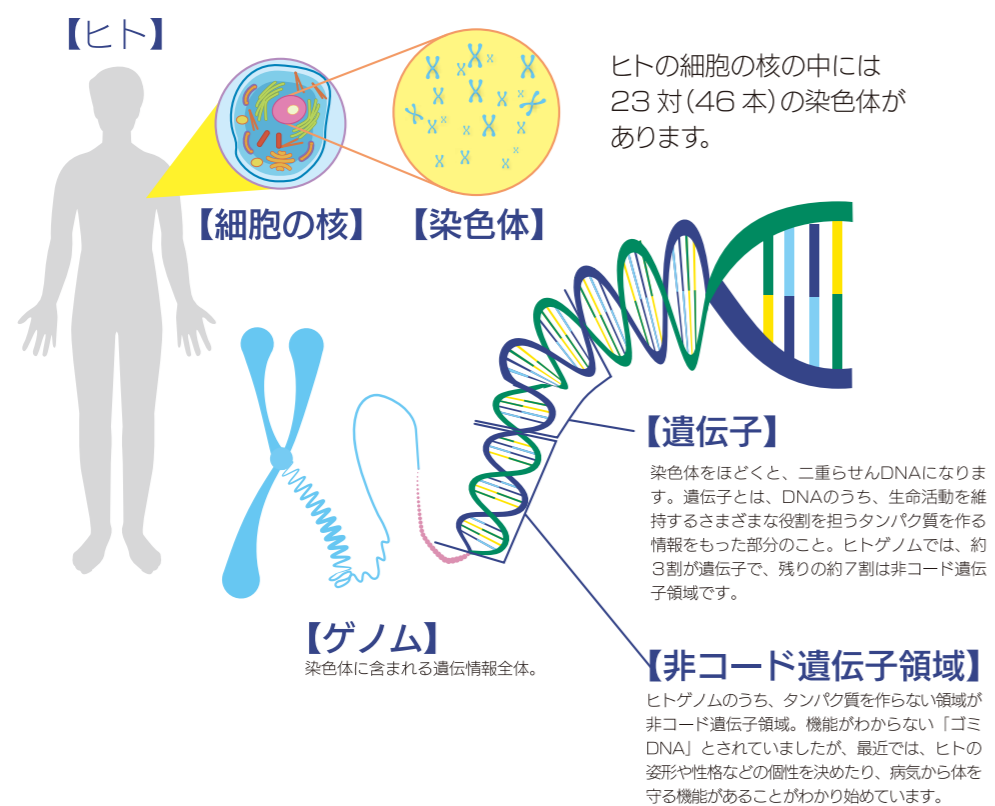
毎年11月初旬に行われている熊本大学黒髪キャンパスの大学祭「紫熊祭（しぐまさい）。100近い参加団体、60店舗近いテント出店を誇り、3万人を超える来場者数で賑わう。学生で組織される実行委員会は、企画や広報など、業務内容を分けて活動。「期間中は地域の方にご迷惑をおかけすることもあるから」と定期的に地域の清掃活動も行っている。

8月、熊本を代表するまつり「火の国まつり」にも参加。150人の大所帯で総踊りに登場し、華やかに祭りを盛り上げた。



生命の源流をたどる。 遺伝子研究 最前線。

特集I
遺伝子の謎に迫る



ゲノム・遺伝子ってなに？
この言葉はなにを指しているのでしょうか。

2003年に、ヒトゲノム(遺伝情報)の全塩基配列が解析され、ヒトゲノム計画の完了が宣言されました。この解析により、ヒトゲノムには2万数千個の遺伝子があることが明らかになっています。

人の設計図とも言われるヒトゲノム。この配列を読み取れば、人の生命の仕組みは解明される、と思われていました。

ところが、塩基配列の違いだけでは説明できない遺伝子調節機構(エピゲノム)や、ヒトゲノムの7割を占める遺伝情報を伝えない非コード遺伝子領域の役割など、新たな疑問が生まれ、世界の研究者が、この謎に挑み続けています。

今回の特集では、熊本大学で行われている最先端の遺伝子研究の中から、これらの謎の解明に取り組んでいる研究者をご紹介します。



エピゲノムとエピジェネティクス
私たちの細胞は、基本的に同じゲノムを持っています。しかし、すべての細胞は同じ働きをするのではなく、臓器や神経、血液など、それぞれに違う細胞に変化していきます。この多種多様な細胞が生じる要因と言われているのがエピゲノムです。エピゲノムは遺伝子の働きをオンにしたりオフにしたりする働きをもっています。さらに、付箋のように貼ったりはがれたりして、遺伝子の働きを制御します。ゲノムは変わりませんが、エピゲノムは生活環境や社会経験で変化すると考えられており、これが成長するにつれて一卵性双生児に、個性が生まれる理由です。エピゲノムの働きを解明する学問がエピジェネティクスです。

遺伝子研究を推進する 主な熊本大学の組織

熊本大学の遺伝子研究は、1939年の体質医学研究所(現在の発生医学研究所の前身)の設立に始まっています。現在、熊本大学では、下記のような組織で遺伝子研究を推進し、新たな研究成果を世界に向けて発信するとともに、国内外の遺伝子研究を支える役割も担っています。

<p>生命科学研究部 (医学系、薬学系)</p> <p>岩本 和也 教授</p> 	<p>発生医学 研究所 (IMEG)</p> <p>中尾 光善 教授</p> 	<p>大学病院</p>	<p>国際先端医学 研究機構 (IRCMS)</p>	<p>生命資源研究・ 支援センター (IRDA)</p> <p>荒木 正健 准教授</p> 	<p>ヒトレトロ ウイルス学 共同研究センター</p>
--	--	-------------	------------------------------------	---	-------------------------------------



体質とエピジェネティクスについて書かれた中尾先生の本



ヒトの発生は、初期胚、胎芽期、胎児期という3段階に分けられます。胎芽期はさまざまな器官を形成する時期で、この過程が何らかの影響を受けると先天性異常などが起こります。体を大きくしていく胎児期に影響を受ける場合は、成長を抑えて生命の維持を優先するため、低出生体重児になりやすい。現在では、胎児期から生後の乳幼児期も含めた、発生・成長期の生育環境が成人期の健康や病気のかかりやすさに

予防医学の実現につながる エピゲノムの解明

生体重児として生まれた後、戦後の国際的な支援で栄養の摂取は急速に改善しました。一般的に、生物は環境に適應する仕組みを持っています。今が飢餓なら将来の飢餓に備えて、栄養分をなるべく蓄積しようとする。エピゲノムが遺伝子の働きを調節して栄養分を蓄えやすくする「代謝メモリ」という仕組みが働きます。生まれた後も低栄養ならすぐに適應して有利ですが、逆に高栄養であれば肥満のリスクになります。日本では、総出生数の低下とともに、低出生体重児の割合が高くなっています。代謝メモリが体質の形成に働いていると考え、私たちは解明しようとしています。

つながらずという考え方は、DOHAD(※)学説(健康と病気の発生源説)と呼ばれています。

「私たちは、環境(栄養、ホルモン、炎症)とエピゲノムの役割について調べ、エピゲノムの記憶(細胞メモリ)を明らかにしたいと取り組んでいます。環境因子はエピゲノムの化学修飾として記憶されます。このため、両親を含めて子どもの生まれる前後の栄養環境、その後の生活習慣が大切になります。他にも、長期のストレスに適應しようと、エピゲノムが少しずつ変わっていきます」と中尾教授。今後、エピゲノムの仕組みが解明されれば、「エピゲノムは修飾なので元に戻すことができます。病気になりやすい体質を科学的にはつきりできれば、予防医学の実現につながるでしょう」。

熊本大学を「質の高い環境と学問に集中できる素地がある」と話す中尾教授。「情報社会では、ユニークな発想やオリジナリティはどこからも生まれてきます。大学は学ぶところ。むしろ、新たな価値を創造するところといえます。若い人たちへ「自然・社会・生命への好奇心やワクワク感を大切に行動することが、自分の原動力(エンジン)になります。大学を最大限に活用してほしい」とメッセージをくれました。

※ DOHAD
Development Origins of Health and Disease 学説



発生医学研究所
発生制御部門 細胞医学分野
中尾 光善 教授

1991年久留米大学大学院医学研究科修了。ペイラー医科大学留学(米国)、熊本大学医学部講師を経て、2002年より熊本大学発生医学研究所。主な研究テーマは健康と病気のエピジェネティクス。日本エピジェネティクス研究会代表幹事。

もっとよくわかる
KEYWORD
キーワード

**エピゲノムと
食事栄養の関係**

私たちが食べた栄養分は体の中で酵素によって代謝され、その代謝物を使って別の酵素がDNAのメチル化などの化学修飾を行います。この化学修飾されたゲノムの総称がエピゲノム。DNA上などの遺伝子を動かせるかという、遺伝子発現の選択を行っています。食事栄養が長期に偏っていると、エピゲノムと遺伝子の発現パターンが変化して固定されて、それが積み重なって肥満や生活習慣病の体質が形成されると考えられます。

ヒトの個性をつくる エピゲノムの記憶

1939年に設置された体質医学研究所から始まった、熊本大学発生医学研究所。ここで、エピジェネティクスを研究するのが中尾光善教授です。中尾教授が着目する、「遺伝と環境のサイエンス」について、話を伺いました。



環境に適應しようとする 「細胞メモリ」が 体質を換える

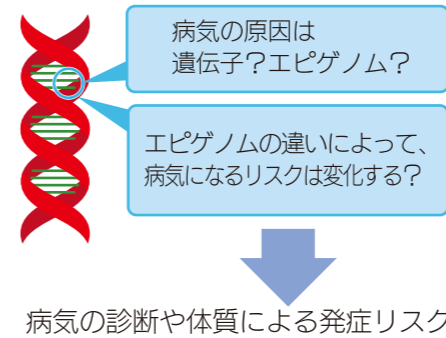
私たちの体は遺伝子をのせたゲノムDNAという遺伝情報によって作られていますが、「それで全てを説明できるわけはありません」と中尾教授。一卵性双生児のように、まったく同じゲノムを持っているながら、年とともに体質や病気のかかりやすさなどが違ってくる。ここではゲノムの化学修飾であるエピゲノムの変化があり、「エピゲノムは、生活環境や社会経験などによって化学修飾のされ方が違ってくるため、同じゲノムを持っていても体質が換わります」と話します。

エピゲノムの化学修飾の変化は、生まれる前から始まっています。1989年、英国のデビッド・パーカー教授が、心筋梗塞や2型糖尿病、肥満などの「成人病の胎児期起源説」を提唱。さかのぼれば、第二次世界大戦末期のオランダ飢饉を経験した妊婦から低出生体重児(出生時体重2500g未満)として生まれた子どもが、成人期に肥満になる割合が高かったことを踏まえ、大規模追跡調査を行って導かれたものです。そのメカニズムはしばらく不明でしたが、近年、エピジェネティクス研究で少しずつ分かってきます。

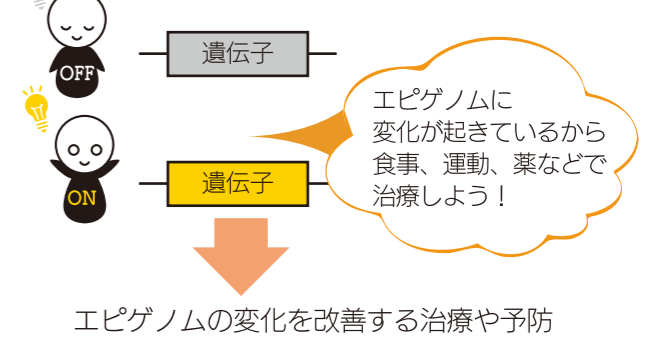
「オランダ飢饉の場合、低栄養のため低出

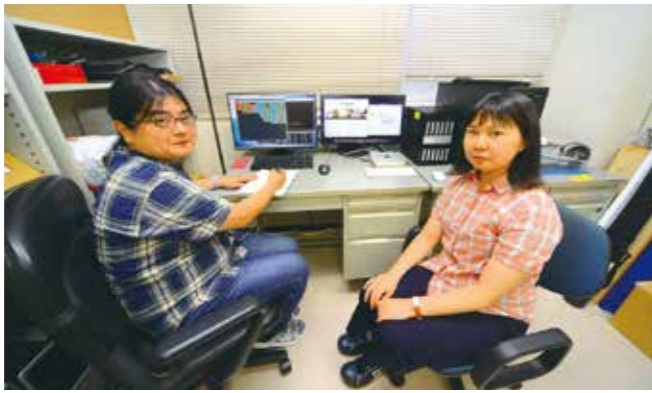
エピゲノムの、診断と治療への応用

①診断への応用



②治療への応用





DNAなどが持っている情報をスーパーコンピュータで解析する、生命科学と情報科学の融合分野、バイオインフォマティクス。岩本研究室では高性能のシステムを組み、膨大な量のDNA解析を専門スタッフがやっている

脳のDNAを直接調べてゲノムの修飾を解析

岩本教授が取り組むのは、双極性障害（躁うつ病）と統合失調症という精神疾患にかかわる遺伝子研究です。疫学研究によって、この2つには遺伝的要因が関係すると分かっていますが、その原因遺伝子はいまだ特定されていません。「その理由の一つとして考えられることは、遺伝子研究が血液から採ったDNAのゲノム塩基配列を調べることで行われてきたこと。私たちは、脳の中のゲノムDNAを直接調べる必要があると考えて、研究を進めています」。ヒトのDNAは、体のどの部分でも配列は同じとされていますが、実は、細胞ごとにその特性は違います。近年の研究によって、脳の場合は環境要因によってゲノムの修飾が変わり、働き方が変わるというエピジェネティクスという現象と、DNAの塩基配列自体が変化する体細胞変異という現象が明らかになっています。「私たちは、亡くなった患者さんから脳の試料を提供頂き、ゲノムDNAの化学修飾状態と配列を調べるというアプローチで、精神疾患の原因を明らかにしようとしています」。

その中で、岩本教授らが着目している



双極性障害と統合失調症を エピジェネティクスで 明らかにする

双極性障害と統合失調症という精神疾患を、エピジェネティクスによって明らかにしようと挑む、分子脳科学講座の岩本和也教授。「医学の基礎研究が、医学の進歩に少しでも貢献できるように」と、日々研究に勤しんでいます。

一つがトランスポゾンという転移因子。トランスポゾンは細胞の中を飛び回っており、ゲノムの中の新しい場所に入りませんが、その入った場所が精神疾患に重要な遺伝子の場合に、発症につながるのではないかと考えています。「トランスポゾンは神経発達のごく初期に飛んでいますが、統合失調症患者さんの場合、飛ぶ量が多いことを私たちが明らかにしています。マウスのお母さんが妊娠中にウイルス感染をおこすと、生まれてきた仔マウスのトランスポゾン量が増えることが分かっており、妊娠中に母親の免疫反応が過剰に上昇したことが、トランスポゾンの量を増やす引き金になっていると考えています」。

苦しむ患者さんへ還元することが使命

遺伝子を構成するのはアデニン(A)、チミン(T)、グアニン(G)、シトシン(C)の4種類の塩基であると言われますが、エピジェネティクスの研究者は、これにメチル化されたシトシンを含むので5個と考えます。化学修飾の種類は年々増えていますが、脳でのエピゲノムの変化や体細胞変異については、まだわずしか知られてい

ません。研究技術が進歩し、知識が増えれば増えるほど、分らないことも増える。だからこそ研究の魅力でもあると話します。

学部時代は農学部在籍。しかし大学院は、「人間とは何か」を研究する東京大学の理学系研究科で人類学を学びました。「大学院進学時は、分野を転換する機会の一つ。熱意があれば、分野の転換は難しくありません」。現在、研究室に所属するスタッフも、医学部以外の出身者ばかりだそう。そして、4年前に着任した熊本大学を「基礎研究を重視する雰囲気が醸成されている大学」だと話します。「私達の研究も、脳の中で何が起るから精神疾患になるのか、そのメカニズムを知りたいという純粋な、理学的興味からの基礎研究です」。しかし、精神疾患は受け継いだ遺伝的変異だけではなく、脳の中におけるゲノムの化学修飾の変化が重要であり、発症に至るメカニズムを分子レベルで解明できれば、予防や創薬につながるメリットは計り知れないと岩本教授。苦しんでいる患者さんに少しでも還元でき、医学の進歩に貢献することが私たちの社会的使命です」。

もっとよくわかる
KEYWORD
キーワード

環境要因による
遺伝情報の変化と
精神疾患発症の
メカニズム

これまで実際の人間集団を対象にした疫学研究により、精神疾患の罹患率を上昇させる環境的な要因が多く報告されています。しかしどの要因も発症にいたる分子メカニズムはほとんど明らかにされていませんでした。

岩本先生の研究などにより、生まれる前の胎児期に受けた影響は、DNAに直接変異をもたらすことが明らかになりました。さらに、養育環境や成長後のストレスなどのリスク要因により、エピゲノムの変化が発生。脳組織の遺伝情報を変化させ、発症に至ると考えられています。

環境要因による遺伝情報の変化と精神疾患発症のメカニズム



大学院生命科学部
分子脳科学講座
岩本 和也 教授

2001年東京大学理学系研究科生物科学専攻博士課程修了。理化学研究所脳科学総合研究センター、東京大学大学院医学系研究科特任准教授等を経て、2015年熊本大学へ。専門は分子精神科学、精神神経科学。

遺伝子を網羅的に解析し
データベースを構築

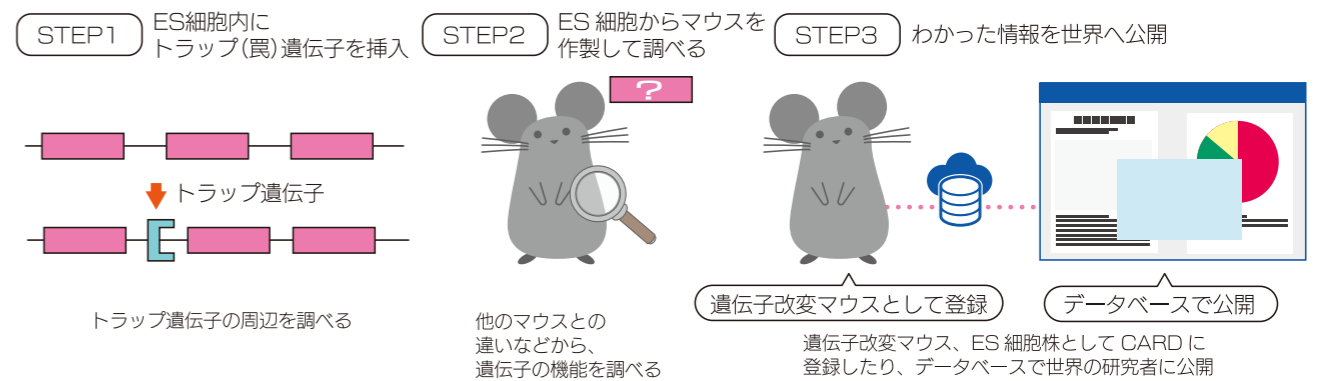
熊本大学生命資源研究・支援センターは、様々な研究や教育のために使われる遺伝子改変動物の作製、開発、保存、供給などを行う機関。熊本大学内だけではなく、遺伝子改変動物を使用して研究を行う世界中の大学や研究機関を支えています。特に、遺伝子改変マウスについては、世界でも名が知られた存在。世界で初めてマウス受精卵の凍結技術を確立した中瀧直己教授率いる動物資源開発研究施設(CARD)があり、CARDのマウス飼育施設は、国立大学では東京大学に次ぐ規模を誇ります。

このセンターで、遺伝子改変マウスのES細胞株のデータベースを構築しているのが、ゲノム機能分野の荒木正健准教授です。疾患の解明や発生学研究などでは、ある遺伝子に狙いを定め、その遺伝子を破壊したノックアウトマウスや、その遺伝子を外から入れたトランスジェニックマウスなどの遺伝子改変マウスを作製してその変化を調べ、狙った遺伝子の機能を明らかにします。それに対し、荒木准教授は、狙いを定めずに、ランダムにトラップ(罠)遺伝子を入れ、捕まえた遺伝子の



可変型遺伝子トラップクローンデータベース(EGTC)のwebサイト

遺伝子の機能を公開するまでの仕組み



情報を得ると同時に、捕まえた遺伝子の機能を破壊することでノックアウトマウスを作製し、そのマウスがどんな性質や病気などを示すのかを解析することで、様々な遺伝子の機能を網羅的に明らかにしています。「網羅的にたくさんの遺伝子を調べることで、ピンポイントにターゲットを決めて調べていた時には分かっていたいなかった、新たな知見が得られます」。

その一つがタンパク質を作らない「非コード遺伝子領域」の役割。これまでの研究では、生命維持に必要なタンパク質を作り出さない非コード遺伝子領域は「ゴミDNA」と呼ばれてきましたが、ヒトゲノムプロジェクトから始まった一連の研究により、非コード遺伝子領域にも重要な機能があることがわかってきています。

荒木准教授が全世界に公開している「可変型遺伝子トラップクローンデータベース(EGTC)」には、1278系統のES細胞株が登録されていて、捕まえた遺伝子の名前や機能などの情報を知ることができます。また、1278系統のうち、508系統についてはES細胞株からキメラマウスを作製し、マウス系統を樹立しています。さらに、これまで知られていない未知遺伝子をノックアウトできることも遺伝子トラップ技術の特徴の一つです。

遺伝子改変マウスを
受精卵や成体でも提供

荒木准教授が作製したマウス系統は全て、熊本大学CARDマウスバンクに寄託されており、そのデータベース(CARD RBASE)を見た世界中の研究者からのリクエストに応じて、凍結受精卵、凍結精子または成体マウスとして提供されます。「ES細胞株の数では、10万種類を保有している研究施設もあります。ただ、マウスとして508系統を提供できるのは熊本大学ならでは。これは、当センターにCARDがあることが理由です」と荒木准教授。「私が行っているのは、世界中の研究者が、様々なことを調べるリソースを提供する研究です。現在はゲノム編集技術(※)を利用できるので、ノックアウトマウスは比較的簡単に作製できます。ただ、特定の遺伝子のノックアウトマウスを作製して欲しいと頼んで作ってもらうにはそれなりに費用がかかります。CARDマウスバンクを利用してもらえば、すでに作製されているものを入手できます」。EGTCは、もちろん、生命資源研究・支援センターの遺伝子改変マウス研究開発や供給は、世界中の研究を支えています。

※ゲノム編集技術
ゲノム上で任意の遺伝子を改変する技術

世界中の研究者を支え
非コード遺伝子領域の解明にも繋がる

遺伝子のデータベース

医学や発生学研究に欠かせない遺伝子改変マウス。そのES細胞株データベースで世界中の研究者を支えるとともに、遺伝子研究の最大の謎「非コード遺伝子領域」の機能解明にも取り組む生命資源研究・支援センターの荒木正健准教授です。

もっとよくわかる
KEYWORD
キーワード

可変型遺伝子
トラップクローン
データベース
(EGTC)

荒木准教授が同定した、1278系統の可変型遺伝子トラップクローンのデータベース。クローンとは、同じ親から生まれた、特定の遺伝子を持つ「遺伝的背景が同じ集団」を意味します。データベースからは、マウスゲノム上の位置や遺伝子名、SRACE法と呼ばれる、遺伝子の転写開始位置を同定する方法で解析した塩基配列などのほか、そこから作製されたマウスの系統情報、論文情報など、あらゆる情報が得られるようになっています。



生命資源研究・支援センター
ゲノム機能分野
荒木 正健 准教授

1983年熊本大学大学院理学研究科(化学専攻)修士課程修了。(財)化学及血清療法研究所(化血研)、大阪大学細胞工学センターの後、スイス・ジュネーブ大学へ留学。1995年に熊本大学へ。主な研究テーマは可変型ジントラップ法を用いた疾患モデルマウスの開発。

\ 先生 interview /

教育学部 学校教育(教育学)

藤井 美保 准教授

Miho Fujii

本気で取り組んだ経験は必ず人生の糧になります



藤井 美保 准教授

私が専門としている教育社会学は、教育的現象について社会的に研究する学問です。子どもや教育にかかわることであれば、何を対象にしてもOK。自分がすごく気になる事、もやもやとしていたり、どんなことでもいいので、それをテーマに取り組んでほしいです。一生懸命取り組めば、必ず壁に当たるし、実は問題の本質が違うところがあったと気づくこともあります。一つのことにかつちりと取り組んだ経験は、教員になってもほかの道に進んでも、人生の中で役に立つ日が必ず来るはずですよ。



「子どもの幸せについていろんな方向から一生懸命考えてみたい人」、待っています
—自分が気になることに、全力で取り組もう!

学生が見た!

藤井研究室 3つの特徴

- 1 研究テーマ**
研究テーマの一つが、家族支援。学生たちは、子ども食堂などのボランティア活動を行い、現場を見て感じることで、支援のあり方について理解を深めています。
- 2 メンバー**
留学生や社会人の院生も多く、多様なバックグラウンドを持つ学生たちが和気あいあいと学んでいます。
- 3 先生**
厳しい指導も、「正しいこと」を言われるから納得できる。厳しさに学生への「愛」を感じる先生です。

Lab's Data

- 卒論・修論テーマ
 - ・子どもの貧困と学力-学力を支える「つながり」の重要性-
 - ・子どもの共食に関する研究-社会的発達に関する機能を中心に-
 - ・性的マイノリティをめぐる学校教育の現実と課題
 - ・地域における居場所としての子ども食堂-たろう子ども食堂を事例として-
 - ・社会的に排除される不登校と社会的自立の課題-学力保障と進路支援を中心に-
- 就職先
 - ・小学校教員(熊本県、熊本市、福岡県、福岡市、大分県、佐賀県、長崎県、宮崎県、山口県、神奈川県、川崎市、東京都など)
 - ・中学校教員(宮崎県)
 - ・保育士(私立保育園)
 - ・公務員(熊本市、大津町など)
 - ・一般企業(肥後銀行、三菱電機エンジニアリング、サンエー・インターナショナル、熊本県信用保証協会など)
- メンバー
 - ・修士課程2年生1名、1年生1名
 - ・学部4年生5名、3年生5名
 - ・研究生1名

先生と話すことで見えた本心に自分が知りたかったのはこれ!
—どんな研究室ですか?

日ごろは他愛ない話で和気あいあいとしています。ゼミの時はみんな真剣で、意見を交わしながら学びを深めています。私は最初、子どもの教育と貧困に興味を持ち、藤井ゼミに入りました。でも、先生からいろいろな質問をされて考えていくうちに、自分が本当に気になることが「道徳性の発達」だと気づき、研究テーマを変え、今は卒論に取り組んでいます。将来の目標は小学校の先生。実習で、子どもたちの「分かった」「楽しかった」という言葉に感動して、先生になるという思いがますます強くなりました。

教育学部4年 おおた あゆみ 愛弓さん



教員以外にも目指す道はいっぱいやりたいことに全力を注ごう

—どんな研究を?

研究テーマは、非行少年の更生におけるプロセスです。同じ教育を受けているのに、なぜ非行に走る子とそうでない子がいるのか、と感じたことがきっかけ。将来は、少年院を出た人の更生を見守る保護観察官になることが目標です。教育について興味があるなら、絶対に教員志望と思っ ていなくても、教育学部で学べることはたくさんあります。大事なものは、自分がテーマとしたことに全力で取り組むこと。まだ取り組みたいことがないなら、まずはそれを見つけて、そこに全力を注いでほしいと思います。何かを突き詰めることの楽しさを見つけてほしいですね。

教育学部4年 さはら 椋大さん



大学院で「子どもの笑顔」につながる支援策を明らかにしたい

—なぜ大学院に進学を?

長年、現場で幼児教育に携わってきました。そのなかで、集団生活になじみにくい子どもや特別な支援・配慮を必要とする子どもたちの教育について試行錯誤してきました。現在は保育園や幼稚園と小学校の「保幼小連携」も重要な課題となっています。最先端の研究をしている大学院で様々な知識や理論を学び、子どもたちへの支援策を明らかにしたいと考え進学しました。ゼミの若い学生といっしょに学ぶなかで多くの気づきや発見があり、ワクワクしながら通っている毎日です。

大学院 教育学研究科 修士課程1年 まつおか まさよ 松岡 昌代さん



密着!

藤井研究室



研究室恒例!メンバーの誕生日会



子ども食堂でのボランティア

目指せ、東京五輪！ 熊大ゆかりの 先輩を応援しよう！

いよいよ2020年の東京五輪まであと1年を切りました！調べてみると、熊本大学にゆかりのある先輩たちが、さまざまな形の大会出場を目指し、日々頑張っている、という情報が！そんな、先輩方を応援しようと、元体育会本部役員の岩本朝希さん(大学院自然科学教育部)が、インタビューに行ってきました！

interview 1

ボート競技
山領 夏実 選手

—なぜボートを始めたのですか？

高校で、新しいスポーツを始めたいと思ってたところ、最初に声をかけてくれたのがボート部の先輩でした。自然の中で行うことが新鮮で、「福岡県にはボート部が少ないから、すぐに大きい大会に出られるよ」と言われたことも、入部の決め手になったと思います。(笑)。

—企業所属後、何か変化がありましたか？

企業スポーツという場で、競技をしながらお金をもらうことや会社の顔として活動すること、応援してくれる人が増えることは、プレッシャーでもあります。しかし、私のボートは、多くの人が関わって成り立っていることを実感でき、自分の立ち居振る舞いや姿勢を日々理想に近づけようというモチベーションにもなっています。

—世界を相手に戦う時はどんな気持ちですか？

最速への近道は、自分の最高のパ

フォーマンスを引き出すことなので、国際戦でも国内戦でも、まずは自身にフォーカスすることが大事。しかし戦う相手がいると、自分が思っている以上の力が出せることは間違いありません。世界の舞台では、ともに戦えるライバル国の選手たちに感謝と敬意を持っていきます。

—東京五輪への思いを聞かせてください。

自国で開催されるオリンピックに、自分がアスリートとして関わることができる状態であることは奇跡のようなものだと思います。

ボート競技で金メダルを争うレースがしたいという思いがひとつ、またそのレースを観た子どもたちが、ボートに興味を持ち「やってみたい」「あんな選手になりたい」と、ワクワクした気持ちになつてもらえたら最高です。

—熊本大学の後輩にメッセージをお願いします！

私はボートを始めて13年。毎日全力を尽くすことで、毎日新しい発見があり、成長し続ける最高の毎日があります。熊本大学という学び舎で、皆さんもそんな成長の日々を送られるよう、応援しています！

日本開催の年に、 アスリートとして関わる「奇跡」を感じて



◎デンソーボート部



◎デンソーボート部



◎デンソーボート部



株式会社デンソー ボート部
工学部建築学科卒・ボート競技
山領 夏実 選手
Natsumi Yamaryo

2014年熊本大学工学部建築学科卒業。ボートは高校1年生から。熊本大学ボート部では、先輩後輩とともに監督に指導を受ける中、年を追うごとに競技自体により向き合うように。三本和明監督にスカウトを受け株式会社デンソーに入社、ボート部に所属。

◎デンソーボート部

私が取材
しました！

大学院自然科学教育部
理学専攻博士前期課程1年
岩本 朝希さん
Asaki Iwamoto



競輪選手
熊本大学教育学部附属中学校卒・自転車競技
中川 誠一郎選手
Seichiro Nakagawa

1992年熊本大学教育学部附属中学校卒業。高校卒業後、競輪の世界へ。選手ランクのトップクラスであるS級で活躍中。自転車競技でも活躍し、2012年のロンドン五輪、2016年のリオ五輪に出場した。



二度の五輪に出場！ 東京ではパラ競技をサポートしたい

「五輪に2大会（ロンドン・リオデジャネイロ）出場されてどのようなことを感じましたか？」
五輪は小さいころからの憧れ。自転車競技で記録が出せるようになり、出たいと思って競技していました。ロンドン大会に出場できたときは、憧れの

「競技の魅力は何ですか？」
やはりスピード感だと思います。最高で時速70km出ますし、実際の音もすごいと思います。職業としての競輪とは違い、好きで競技をしている人たちのコンマ1を争う戦いは魅力だと思います。

「自転車競技を目指したきっかけは何ですか？」
元々スポーツが好きで、スポーツに関わる勉強や職業に就きたいと思い大学を受験しました。残念ながら不合格になってしまい、今後のことを考えているとき、自転車競技の選手である叔父から勧められたことがきっかけです。

interview 3

自転車競技 中川 誠一郎選手

「熊本大学の先輩にメッセージをお願いします！」
のめりこめるものを早く見つけて続けていってほしいと思います。何かきっかけかはわからないので、「やってみようかな」と気軽に挑戦してほしいと思います。

「東京五輪への思いを聞かせてください。」
東京五輪では、パラサイクリングの視覚障がいクラスのパイロットとして参加できないかと考えているところです。視覚障がい者のサイクリング競技は、二人乗りのタンデム車を使い、後ろに選手、前に晴眼者が乗って競技します。力をあわせて勝利を目指したいと思っています。

その後、平常心で試合に臨めるよう心がけ、もう一度五輪に出たいと思うように。リオでも出場でき、持てる力をすべて出し切ることができたと思います。
その後、平常心で試合に臨めるよう心がけ、もう一度五輪に出たいと思うように。リオでも出場でき、持てる力をすべて出し切ることができたと思います。

interview 2

車いす陸上競技 中尾 有沙選手

「熊大時代はどんな学生生活でしたか？」

部活中心の生活を送っていました。走り幅跳びや三段跳びをしていましたが高校で記録が伸び悩んでいたため、大学では楽しく続けられたらいいなという気持ちで部活に入りました。自分で考えて主体的に練習を行う雰囲気の中で、練習が面白くなり、朝練から夕方の練習まで、空いた時間はほとんど練習。そのおかげか記録も伸び、3年生では全国レベルの大会で入賞できるように。2015年に三段跳びで日本一になりました。

「車いすでの競技に挑戦されたきっかけを教えてください。」

2016年1月に、トレーニング中の怪我で脊髄を損傷。リハビリのための入院が半年続きました。下半身が動かなくなると、陸上ができなくなってしまったけれどスポーツはもうしなくてもいいかなとも思いました。でも、テレビや新聞でいろいろな大会を見ているとき「今まで自分が出ていたのに、そこに自分がないことが不思議」と思うようになって、

競技がしたいという気持ちが芽生えました。そんなとき、車いすマラソンの選手、山本行文さんが訪ねてきてくださって、誘っていただいたのがきっかけになりました。

「今後はどのように競技を続けたいと思いますか？」

競技を始めたときは趣味くらいでできたらいなと思っていました。三段跳びでは下半身の筋肉を使い、車いす陸上で必要な上半身の筋肉を鍛えるのは大変でした。少しずつ体を作ってきて、2018年のシーズンが終わったとき、本格的に取り組みたいと思えたんです。走り幅跳びや三段跳びをやっていたときのような気持ちでやりたいと思いました。今後は東京とバリのパラリンピックを見据えて記録を伸ばしていきたいと思っています。

「熊本大学の先輩にメッセージをお願いします！」

大学時代は自分を作るための大きな4年間。1つのことに全力で取り組んだり、いろんなことに挑戦してほしいと思います。うまくいかなくなることもあるかもしれないが、全力で取り組んだことや人とのつながりは絶対に消えないので、前向きに頑張ってくださいと思います。

「競技を続けたい！」という思いで 大きな事故を乗り越え、世界に挑む



大学院教育学研究科修士・車いす陸上競技
中尾 有沙選手
Arisa Nakao

2013年大学院教育学研究科修士。修了後も陸上を続け、2015年の第99回日本陸上競技選手権大会の三段跳びで優勝。熊本県陸上競技選手権大会では、三段跳び10連覇、走り幅跳び9連覇の記録を持つ。2016年に練習中の事故で脊髄損傷。約1年後には車いす競技を本格的に開始した。2017年のジャパンパラ陸上競技大会では3位、第17回全国障害者スポーツ大会では優勝に輝いた。



文 仏文学に出会ってとことん考えた 大学4年間は仕事と人生の糧



熊大のココがイイ！

夏目漱石や小泉八雲など、文学が身近に感じられるところ。

熊本大学出身の恩師のおかげで、国語が大好きになり文学部を志望

高校1年の時、熊本大学出身の恩師に出会って国語が大好きになりました。国語で学んだことをより深めたいと思い、文学という学問に興味を持つように。オープンキャンパスで熊本大学を訪問し、緑豊かなキャンパスと学問を楽しむ先輩方に惹かれて、熊本大学で文学を学ぶことが夢になりました。

フランスの文化や文学に夢中になった大学時代

大学で初めてフランス語を学び、個性豊かな先生方の授業を通して、フランス文学や文化のおもしろさに夢中になりました。特に4年次は、仏語仏文学研究室で作品の原文を読み込み、先生の熱い個別指導のもと卒業論文を書き上げることができました。演劇や発音法など論文テーマは違っても、仲間とともに励まし合ったことも忘れられない思い出です。

現在の仕事は初めての分野。

でも、学ぶ楽しさを知っていることがモチベーションに

現在は、地球温暖化対策に関する部署に所属し、環境教育を担当しています。「環境」は今まで学んだ分野とは異なりますが、仏語仏文学を通して異文化を学ぶ楽しさを知った経験は、仕事に取り組み上でのモチベーションとなっています。仏文学と向き合っているとことん考えた4年間の糧に、環境教育についても考え抜きたいです。

理 全国のお客様が使うシステムを開発 責任と同時にやりがいを感じる仕事です



熊大のココがイイ！

街から程よく離れているため、勉強と遊びの切り替えがしかりできること。

理科が好きで、理科の魅力を伝えられる教師になりたかった

理科がもともと好きで、高校時代は理科の先生になるのが夢でした。特に実験の時間が好きで、たくさん実験をして、理科の魅力を生徒に伝えられる先生になりたいと思っていました。高校3年生まで化学と物理で迷っていたため、大学入学後に進路が決める熊本大学の理学部へ進学を決めました。

遊び、アルバイトと大学生活を謳歌 研究室配属後も、貴重な経験を重ねた

最低限の勉強をしつつ、多くの時間をアルバイトと遊びに使い、大学生活を謳歌。研究室配属後は様々な学会へ出させていただき、定期的に関東や関西へ行って刺激を受けていました。学外の研究施設での実験や共同研究への参加など、学外の方と研究をする機会もあり、貴重な経験になりました。

多くの人の生活を豊かにできる仕事がしたいと現在の企業へ

多くの人の生活を豊かにできる仕事がしたいと思い、IT企業への就職を決めました。入社後は、システムエンジニアとして、自治体向け内部情報システムのパッケージ開発を担当しています。ITへの知識が全くなかったため苦労することもあります。自分の作ったシステムを全国のお客様が運用していると思うと、責任と同時にやりがいを感じます。

医 血漿分画製剤の製造を通して 命と健康を守る仕事にやりがい



熊大のココがイイ！

尊敬できる先生、個性的な人とのたくさんの出会いがあるところ。

臨床検査技師資格を取ろうと検査専攻へ

祖父母が癌を患った経験から、高校生の頃は医療に携わる仕事がしたいと考えていました。人の生命、健康を守る仕事に就くため、臨床検査技師の資格を取ろうと思い、検査専攻に入りました。

大学時代は、学校だけでは学べないたくさんを経験できた

大学時代は、大学での講義だけではなく、アルバイトや臨床実習を通していろいろなことを経験し、たくさんの人と出会い、多くのことを学びました。大学生生活は「学校では学べないこと」を多く経験し、身につける、とてもいい期間だと思います。

多様な専攻出身者から刺激を受ける職場での毎日

卒業後はKMバイオロジクス株式会社に入社し、現在は血漿分画製剤の製造業務に携わっています。製薬メーカーという、検査専攻と一緒に学んできた同級生とは少し違う道に進みましたが、日々様々な専攻出身の人から刺激を受け、血漿分画製剤の製造を通して、「人の生命、健康を守る仕事」にやりがいを感じています。

法 個人のキャリアや企業の人材戦略を行う 仕事を通して自他の価値観を見つめる



熊大のココがイイ！

親身に話を聞いて下さる気さくでアツい先生がたくさんいらっしゃいます！

テロ問題を知り、いつか社会の力になりたいと感じた

高校時代はテロや難民問題がよく取り上げられていて、漠然とUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)で職員として働き、力になりたいと考えていました。幼少期から好奇心旺盛で、海外に行ったことはありませんでしたが、自分と異なるバックグラウンドを持つ海外の方々に強く興味を持っていた気がします。

大学では九州の旅行を満喫し、海外研修や留学も積極的

九州と海外滞在を大満喫した大学生活でした。学部の友人と大分、宮崎、熊本、沖縄を旅行した時は、大自然を楽しみました。また、1、2年次には、韓国・台湾の大学でサマースクールに2週間、学部からの補助金でオーストラリア・ドイツ研修、1年間の中国留学等、海外にも頻繁に渡っていました。大好きな自然と憧れの海外を味わった大学生活でした。

キャリアアドバイザーとして納得のいく就職活動を応援

現在は、キャリアアドバイザーとして新卒の学生さんに就職活動のアドバイスをしています。人の想いに寄り添う力を活かし、学生さんの持ち味や想いにかかった納得感のある就職活動になるよう、日々尽力しております。個人のキャリア育成や企業の人材戦略を行う仕事を通して自他の価値観を深く見つめることが多く、日々新しい発見を楽しんでいます。

薬 アメリカ・アリゾナ州で アロマセラピースクールを主宰



熊大のココがイイ！

コンパクトな街の中に緑あふれるキャンパス、賑わう繁華街、そして情緒あふれる熊本城。

漢方・生薬にも興味。研究も臨床の仕事にも憧れた

高校時代は、薬学の中でも漢方・生薬に興味を持ち、「生薬成分を遺伝子レベルで解明したい」という夢を推薦入試の小論文に書いたことを覚えています。キユーリー夫人に憧れて、研究の道に進みたいという気持ちとともに、患者さんのベッドサイドでの服薬指導など、医療スタッフの一員として病院で働くことにも憧れを持っていました。

経験するすべてが新鮮。遊びも勉強も充実した4年間

大学時代は、半分は子ども、半分は大人という立場で、経験することすべてが新鮮でした。親のありがたみを感じ、友だちや先生にも恵まれ、遊びに勉強に充実した4年間でした。研究室配属になった4年生は夜遅くまでの実験生活でしたが、今となってはいい思い出であり、現在の仕事にも役立っています。

九州大学病院で勤務後、結婚を機にアメリカ移住

大学卒業後、九州大学病院に7年間、病院薬剤師として勤務しました。ベッドサイドでの服薬指導を主に、学会発表、論文作成、学生の指導などに従事しました。結婚を機にアメリカへ移住。今は、アメリカNAHA協会のアロマセラピストの資格を取得できるアロマセラピースクールを主宰しています。毎年6、7月は福岡でも活動しています。

工 建設コンサルタント企業で 人を支え豊かにする移動サービスを提供



熊大のココがイイ！

先生が親切！専攻の先生はもちろん、他の先生方も学生を覚えていてくれます。

長く活用されるものを造りたいと工学部の土木環境系を志望

高校生の頃は、自分が造ったものが残る仕事がしたいと漠然と考えていました。いろいろな大学、学科を見るなかで、より大きく、長い期間活用されるものを造ろうと思い、工学部の中でも土木環境系への進学を決めました。

研究室で出会った先輩とは今でも仕事の話をする間柄に

大学では、3年生までは授業とアルバイトの日々でした。授業は教室での講義だけでなく、現地を見て写真を撮ったり、グループで製作をしたりと同級生と共同で行うものも多かったです。4年生で研究室に配属された後は、先輩とともに海や旅行にも出かけ、今でも集まって思い出話や仕事の相談をする間柄になっています。

小さな子ども2人の育児中。子育てと仕事の両立にも奮闘

建設コンサルタント会社で、地域を走るバスや鉄道などの公共交通の運行計画や、近年では、自動運転の普及に向けた検討などを行っています。子どもからお年寄りまで、生活を豊かにする移動サービスの提供を考えて取り組んでいます。私生活では小さな子どもが2人いて、子育てと仕事の両立に向けて日々奮闘中です。



本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している

先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

教 熊本地震の年に益城中学校に赴任 手伝ってくれる生徒に励まされて



熊大のココがイイ！

いろいろな教員の免許を取ることができること、実技の力をしっかり伸ばすサポートをしてもらえるところ。

絵を描いたり、物を作ることが好き。マンガ作品の投稿も

絵を描いたり、物を作ったりすることが好きで、本や漫画をたくさん読んでいました。漫画家に憧れて、作品を投稿したりしていました。

美術制作に没頭したり、同級生と色々な話を楽しんだ

大学では、制作に没頭したり、美術科の同級生といろいろな話をして楽しんでいました。また、授業では、前の席をとって熱心に学習。学祭で出店したことも印象に残っています。

地震後、美術教室がない中、生徒たちのために奔走

震災の年に益城中に赴任し、美術科の教員として勤めています。震災の影響で美術室がなく、各クラスの教室を、荷物を抱えて奔走しました。荷物運びを手伝ってくれる生徒や美術を楽しみにしている生徒に励まされて、頑張ることができました。

REPORT 心エコー・腹部エコーハンズオン in 天草を開催しました

9月1日(日)に、熊本県心血管エコー検査標準化プロジェクト(Kumamoto Cardiovascular echocardiography standardization project = K-CHAP)の一環として、心エコー・腹部エコーハンズオン in 天草を開催しました。

K-CHAPは、熊本大学病院中央検査部と循環器内科、熊本県臨床検査技師会及び県下の基幹病院が協力し合い、県全域の心血管エコー検査の質の向上を目指すプロジェクトです。その活動の一つとして、熊本市内で開催される勉強会や講演会への参加が難しい地域における出張ハンズオン(実技講習)を定期的に行っています。

今回は天草地域において、エコー技術の向上を目的に、心エコー・腹部エコーの講義・ハンズオンを行いました。当日は、医師・臨床検査技師・診療放射線技師など30名が参加し、K-CHAPの超音波専門医・超音波検査士の指導の下、最新のエコー機器を用いてエコー技術の習得に取り組みました。

また、熊本大学病院にも来年から導入予定である「経カテーテル僧帽弁クリップ術」の機器の展示・説明が行われ、参加者から好評を得ました。今後は天草だけでなく、球磨地域・県北地域・阿蘇地域など熊本県の様々な地域での出張ハンズオンを継続していく予定です。



(左上) ハンズオンの様子
(右上) 最先端の医療機器 Mitra Cripの実演の様子
(下) 参加者全体写真

INFO 「夢科学探検2019 理学部探検、工学部探検、第104回化学への招待」を開催します

今回で27回目を迎える本イベントは、実験を通して科学の面白さ、不思議さに触れてもらうことを目的として、本年度は約80件の演示実験を予定しています。参加者は例年2,000名を超え、本学黒髪南キャンパスでは最大の一般向けのイベントとなっています。

【開催日時】令和元年11月2日(土) 10:00~15:00

【場所】黒髪南キャンパス
(理学部・工学部・大学院自然科学教育部)

【参加対象者】子どもから大人までどなたでも

【参加費】無料、事前申込不要

【問い合わせ先】工学部教務担当

TEL:096-342-3522 E-mail:yume@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp

【URL】http://www.chem.kumamoto-u.ac.jp/act/yume2019.html



INFO 第14回熊本大学ホームカミングデー及び第6回熊本大学九州連合同窓会を開催します

卒業生と学生、教職員との交流を図ることを目的に開催します。キャンパスツアー、大学の近況報告、講演会、学生によるアトラクション等多彩な行事と交流の場を用意しています。今回は、第6回熊本大学九州連合同窓会と同時開催です。

【開催日時】令和元年10月27日(日) 13:00~17:30(大江キャンパスは12:30から)

【場所】文法学部本館、工学部百周年記念館、薬学部宮本記念館

【参加対象者】卒業生

【申込方法】メール、FAXにて問い合わせ先に直接申込

【参加費】2,000円(歓迎パーティー参加の場合)

【問い合わせ先】総務部総務課ホームカミングデー担当/基金・同窓会事業室

TEL: 096-342-3116、3129 FAX: 096-342-3110

E-mail: kuma-hcd@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【URL】https://www.kumamoto-u.ac.jp/sotugyosei/sotsugyousei/home_coming/14-1



REPORT 書家 金澤翔子さんへ感謝状を贈呈しました

書家 金澤翔子さんが、平成31年の新年に際し「今年の一文字」として揮毫した書「祈」を、本学に寄贈してくださいました。

7月8日(月)に学長室にて執り行った感謝状贈呈式には、翔子さんのお母様、本学に翔子さんを紹介して下さった新庄様・島田様も出席され、原田信志学長から翔子さんに感謝状と記念品が手渡されました。

原田学長は、「熊本大学は3年前の熊本地震で被災し、今も復興の途中です。翔子さんの力強い「祈」という字に、われわれは大変勇気づけられています。素晴らしい書を寄贈くださり、ありがとうございました」と感謝の言葉を述べ、和やかな雰囲気の中、式を終りました。



REPORT 工学部1号館竣工式を挙行了しました

昭和41年に建てられた工学部1号館は、平成28年4月の熊本地震により、柱や壁梁のひび割れなど建物構造部に甚大な被害を受けたことから取り壊しとなり、このたび、約15月の工期を要して、鉄筋コンクリート造り、地上6階建て、延べ床面積約9千4百平方メートルの建物として完成しました。

6月26日(水)に行われた工学部1号館の竣工式では、原田信志学長から、災害復旧事業としての財政支援と工事関係者への感謝の意が述べられ、来賓を代表して平井明成 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部長から祝辞をいただきました。その後、学内関係者、来賓及び学生代表によるテープカットが行われ、最後に宇佐川毅工学部長から謝辞が述べられました。

式の終了後、参加者は広々とした製図室や学生が利用するフロアに設置されたリフレッシュホールなどを見学しました。



REPORT 市民セミナー No.1 熊本大学所蔵「松井家文書」新史料発見報告会「加藤清正と名古屋城天守石垣」を開催しました

7月20日(土)に、永青文庫研究センターと附属図書館の共催による第1回市民セミナー「加藤清正と名古屋城天守石垣」を開催しました。

本セミナーは、本学が所蔵する「松井家文書」の中に、名古屋城の天守石垣を加藤清正が築いたことを示す一次史料が発見されたことから市民報告会として開催の運びとなりました。また、近年、名古屋城の木造天守復元と石垣保護に関して大きな議論となっており、新史料発見に高い関心が寄せられています。

セミナーは、稲葉継陽同センター長による「清正の天守台普請新史料発見の意義」と、後藤典子同センター特別研究員による「細川家の名古屋城公儀普請」の2部構成で、「松井家文書」から新たに判明した事実と史料発見の意義について報告されました。台風5号の影響による悪天候にも関わらず、会場には県内外から多くの研究者や一般の方が訪れました。今後も、史料調査を進める中で新たな発見を社会へ還元する活動に取り組んでいきます。



質問に答える稲葉センター長と後藤研究員

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.47 (令和元年5月1日～令和元年7月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約14億2,491万円(令和元年7月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。また、熊本地震復興事業基金へお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生に対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、令和元年5月1日から令和元年7月31日までの間に入金を確認させていただきました個人175名、15法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

<熊本大学基金>

【50万円】	山西 嘉晴 (105)				
【39万円】	紙谷 正夫 (100)				
【20万円】	清原 由紀夫 (62)	中林 静子 (20)			
【10万円】	土亀 直俊 (20)	武藤 興紀 (30)	熊本大学工業会熊本支部 (70)		
【5万円以下】	池田 勇 (5)	緒方 義也 (8.5)	河野 文夫 (126)	河村 久幸 (8)	近藤 光弘 (1)
	田上 正昭 (11)	東家 暁 (1)	吹上 安伸 (11)	本多 邦雄 (17)	村瀬 弘幸 (2)
	本島 昭男 (23)	森岡 基浩 (9.5)	昭和44年法学部卒業生有志7人 (1.5)		

2. お名前のみ掲載

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

<熊本大学基金>

浅原 百合子 [2]	伊方 敏勝 [6]	生田 拓也 [4]	伊佐 二久 [16]	井芹 邦昭	一安 秀範 [7]	稲葉 一郎	猪俣 紘一郎 [3]
岩永 洋一郎	上里 一雄 [2]	上塚 昭逸 [7]	上野 千尋	牛島 淳 [2]	白杵 良資	衛藤 光明 [20]	江原 敬一 [2]
大島 隆志 [4]	大津 敬一郎 [6]	大坪 潔晴 [4]	岡崎 美知治 [10]	甲斐 豊 [2]	梶川 成子 [3]	上城 洋一 [3]	菊池 健 [33]
北島 美則 [12]	清藤 武三 [3]	児倉 静二 [6]	近藤 繁美 [9]	斎藤 宣雄 [4]	佐伯 千恵子 [10]	佐田 英信 [6]	鮫島 靖浩 [7]
志摩 清	下中村 武 [5]	新村 美津子 [2]	末宗 敬康 [2]	高宗 俊雄 [5]	田嶋 哲 [2]	田中 明 [3]	玉井 良照 [3]
近本 亮 [4]	長 勇 [2]	陳 瑩村 [4]	徳田 元 [3]	富澤 一仁 [4]	中川 和美	中島 誠 [11]	中村 愿
中村 由紀子 [7]	西村 八郎	波多野 恭行 [17]	波多邊 隆 [2]	馬場 秀夫 [13]	原口 行雄 [4]	原田 正公 [7]	日高 正勝
百名 洋平	平田 友孝 [6]	平野 一字	二塚 信 [16]	堀野 敬 [9]	松井 啓隆 [3]	松村 克己 [2]	丸野 陽一 [6]
牟田 龍史 [3]	村山 政裕	森 毅	山縣 和也 [3]	米村 和広 [2]			
池沢小児科医院	医療法人社団岡山会九州記念病院 [2]	医療法人社団謙心会ヤマサキ胃腸科クリニック [2]			医療法人社団星晶会 [3]		
株式会社中木戸鉄工	がん治療勉強会	金剛株式会社 [2]					

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人86名、6法人・団体等



令和元年度熊本大学学生支援室FD・SD講演会 「大学として、そして一教員として:何を、どうしたらよいのか?~合理的配慮の実践を考える~」を開催します

合理的配慮の実践における問題について、長崎大学からピーター・バーニック氏をお招きして講演会を開催します。併せて、本学の支援状況についてもご紹介いたします。

【開催日時】 令和元年10月30日(水) 14:30~16:30

【場所】 くすの木会館レセプションルーム

【参加対象者】 熊本大学教職員、障がい学生の支援を実施している熊本県内の教職員、教育・福祉・就職等で障がい者支援に携わっている方

【申込方法】 メール、電話、FAXにてお申込ください。

当日参加も可能ですが、なるべく事前のお申込をお願いします。

※配慮等が必要な場合は、学生支援室までご連絡下さい。

※情報保障として要約筆記を用意します。

【申込締切】 10月18日(金)

【参加費】 無料

【問い合わせ先】 学生支援室

TEL:096-342-2765、2766 FAX:096-342-2767

E-mail:gag-sien@jim.kumamoto-u.ac.jp

【URL】 <https://sien.kumamoto-u.ac.jp/>



第35回熊本大学附属図書館貴重資料展 「熊本藩に生まれた近代—手永・惣庄屋制と地域行政—」を開催します

今秋の貴重資料展は、近世熊本藩における地域行政に関する史料を3日間限定で展示します。開催初日(11月2日)には、講演会を開催します。

【開催日時】

■貴重資料展

令和元年11月2日(土)~4日(月) 10:00~17:00

■公開講演会/第14回永青文庫セミナー

令和元年11月2日(土) 14:00~15:30

演題: 熊本藩政と手永・惣庄屋制—近代地方自治の胎動—

講師: 今村直樹 永青文庫研究センター准教授

【場所】 附属図書館(中央館)1階 ラーニングcommons

【参加対象者】 どなたでも

【参加費】 無料、事前申込不要

【問い合わせ先】 附属図書館 TEL:096-342-2212

【URL】 <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/3420>



官立熊本医科大学初代学長山崎正董先生の 顔面像(デスマスク)贈呈式を挙行了しました

8月5日(月)に、本荘北地区の山崎記念館(登録有形文化財)にて、「山崎正董先生顔面像(デスマスク)贈呈式」が行われました。

山崎正董先生は、官立熊本医科大学の初代学長で同附属病院院長も務められ、現在の医学部の礎を築かれました。平成24年7月に株式会社泉洋服店より寄贈された大礼服に続き、今回、顔面像(デスマスク)がご遺族より寄贈されました。日本における顔面像(デスマスク)の製作は珍しく、山崎先生の功績の大きさを表したものと思われます。

贈呈式には孫の坂田多美子さん、親族の中島喜久さんを迎え、学内外から山崎先生に縁の深い方々が出席されました。式の中で、坂田さんより幼い頃、山崎先生の顔面像(デスマスク)が家の柱に飾ってあったことなどのエピソードが紹介され、出席者一同、改めて山崎先生に想いを馳せたひとときとなりました。富澤一仁生命科学研究所部長より、贈呈者である坂田さんへ感謝状および記念品が授与され、和やかな雰囲気の中、式を終了しました。



HIGO行政セミナー特別講演会「想定外のリスクに立ち向かう知力」を開催します

熊本県立劇場館長兼理事長であり、東京大学名誉教授である姜尚中氏をお招きして、社会問題や教育についてご講演いただきます。

【演題】 想定外のリスクに立ち向かう知力

【講師】 姜 尚中 熊本県立劇場館長兼理事長、東京大学名誉教授

【開催日時】 令和元年12月20日(金) 13:30~15:00

【場所】 工学部百周年記念館

【参加対象者】 どなたでも

【申込方法】 学生・教職員の方は、事前の申込は不要です。

学外の方で聴講を希望される方は、事前に下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【参加費】 無料

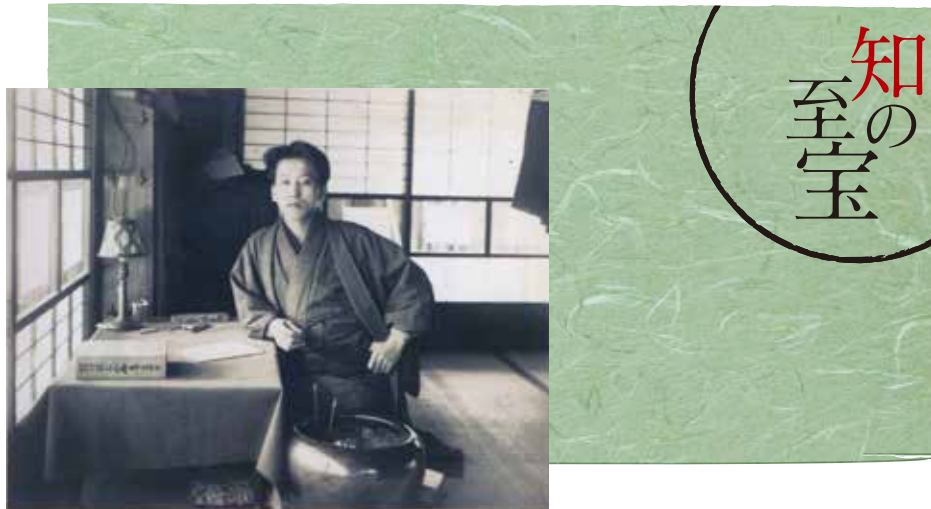
【問い合わせ先】 生命科学系事務課医学事務チーム HIGOプログラム担当

TEL:096-373-5006 E-mail:higo-program@jim.kumamoto-u.ac.jp

【URL】 (日本語) <http://higoprogram.jp/20191220gs/> (英語) <http://higoprogram.jp/en/20191220gs/>



姜尚中氏



五高在学中の犬養孝。この頃は芥川龍之介に憧れ小説を書いていた。

五高と万葉集

万葉集と五高の関係には浅からぬものがある。共に万葉研究の第一人者として知られた高木市之助と澤瀉久孝は、大正末期、ほぼ時を同じくして五高で教鞭を執った。また、五高教授として閉校まで在籍した上田英夫は、万葉研究のみならず歌人としても知られている。

五高在学中、彼らに教えを受けた森本治吉、犬養孝、西郷信綱らも、万葉集や上代文学研究の視座を広げ、万葉研究に新たな一頁を開いた。

特に犬養孝は、万葉集に詠われた総ての地を訪れ、それらが国民にとっての財産であり、作品鑑賞のより所になることを予想し、高度成長期に開発の波にさらされると、財界人や自治体、地元住民などと協力して保全活動に奔走した。教鞭を執っていた大阪大学では万葉旅行会を主催し、犬養節と呼ばれる独特の朗唱による講演を数多く行った。また、故地顕彰のため歌碑の建立を勧め、自ら百三十あまりの碑に揮毫し、万葉集の研究と啓発に生涯を捧げた。現在、その功績を讃え、奈良県明日香村に犬養万葉記念館が開設されている。

文 藤本秀子（五高記念館）

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。